

改めて、皆様、本学東京学芸大学初等教育教員養成課程学校教育選修、略して、A類学校教育選修、あるいは簡単にA類学校教育とか、単に学校教育など言いますが、ともあれ、学校教育へのご入学、おめでとうございます。ご欠席の方がお一人いらっしゃいますが、全部で21名ですね。^{*}

後ほど申し上げますが、私のお隣にいらっしゃる先生は、林教授で、生活指導等がご専門です。

私こと篠原とともに、4年間、皆様の勉学等のご支援など、させていただきます。

よろしく申し上げます。私の専門は、教育方法あるいは科学教育です。

また、本教室には、9名の先生がたがいらっしゃいますが、まず、教室主任の腰越滋先生から、お祝いのお言葉をいただきます。

．．．

では、9名の先生がたを、ご紹介します。

お隣が、今祝辞をいただいた腰越先生。ご専門は、教育社会学です。そのお隣が、古屋先生。教室でもっとも若く、哲学がご専門です。そして、山田先生。学習指導がご専門で、タバコをこよなく愛する私のお隣の研究室で、もっとも私の煙の被害を被っています。

そのお隣が、．．．陣内先生。腰越主任と同じく、教育社会学がご専門です。

そして、右手。川瀬先生は、ドイツ教育史のご専門です。そして、留学生指導のご専門でいらっしゃる戸田先生。紅一点です。

もうひとかたカリキュラムと総合的な学習などをご専門とする平野先生がいらっしゃいますが、所業でご出席いただけません。皆様によろしく、とのことです。

さて、今後4年間、私を含めて、こちらにいらっしゃる8名の先生方、合計9名の先生方が、教育学の領域については、特に、授業等でご一緒されますが、[すでにご案内](#)のように、皆様の教育のプロ、あるいはエキスパートに仕立てるため、努力いたします。もちろん、皆様の、私たち教員への働きかけ次第、ではあります。

．．．．

今日は[履修相談会](#)ということで、一部の先生方を除いては、その微にいり細にいる授業の取り方、特に「副免」の取り方は、とても説明できかねます。つまり、皆さんが「労無くして？」取得できる教員免許状は、「小学校教諭一種免許状」ですが、幼小一貫教育、小1プロブレム、中高一貫教育などから推測されるように、小学校以外の校種との関連を考えたり追及したり、また教師としては「小学校」で教えることのできる教員免許状のみではなく、幼稚園、中学校、高等学校、あるいは特別支援教育等々の免許状を取得して、幅と深さのある教師に育ったりすることが、期待される時代でもありますから、「主免」、主たる免許状である「小学校教諭一種免許状」に加えて取る免許状を、主に対して副、つまり副免許状。略して「副免」と言いますが、その「フクメン」、「マスク」の取り方は、経験

者でなければ、なかなかどうして、分かりません。すでにうすうすお気づきでしょうが、どのように、いつ履修すれば良いか。しかるべき学年でしか履修できないなど。また、どの授業がとり易い、どの授業は労多くして・・・、などなど、不案内です。専門外です。そのため、今日は、皆さんの先輩である 2 年生と 3 年生の、ボランティアとしてご協力をいただいて、「マスクの取り方」を中心にして、今日の会を進めていくことになっております。

後ろに遠慮がちにいる人たちと、外にも数名、出番が今か今かと待機している学生がいますので、時間の許す限り、遠慮なく、ご相談ください。

さて、ひと言。

今日、私たちの周りで起こっている、あるいは、起こりつつあるすべての事象が、情報化に基づくグローバル化あるいは市場化と、人権及び生涯学習社会への強い思いに、端を発していると言っても過言ではありません。言い換えると、今日、異質が混在する中で、量よりも質を強く意識することが求められています。

お手元の「スタディガイド」の「9 GPA による成績評価」(第 24 ページ)、「15 オフィスアワーについて」(第 33 ページ)、そして、「16 学生による授業アンケート」(第 34 ページ)は、これから林先生がご紹介するこの冊子の重要部分、例えば、「4 カリキュラムの特色」(第 5 ページ)と「7 履修基準と卒業要件」(第 12 ページ)等を考える上で、とても重要。言い換えると、記述が不十分と思っていますので、少し説明させていただきます。いま、述べた社会等の変化と直接に関係しています。

さて、法人化、とは、英語で何と言うか、ご存知ですか・・・？

皆さんは 1 年生ですから、特別なことが無い限り、2 年生、3 年生、そして 4 年生よりも、きっと英語ができると思います。

Go corporate

Go private

ですね。会社化、企業化、あるいは、私企業化です。

会社や企業は、顧客のために、世界を股にかけて、世界を超えて、質を競います。

したがって、今や、国立大学は 2004 年の法人化以後、顧客つまり学生のために、顧客つまり学生をもっとも大事にして、彼らにとってできるだけ上質のもの、つまり、上質な教育を、世界基準で、提供しようと、真剣に考え始めました。

世界を超えて、を、トランスナショナルとか、トランスボーダーとか表現されます。ナシ

ヨナルつまり国、ボーダー、つまり境あるいは国境をトランス、越えて、ということですね。

グローバル化とは、「異質な中で、『量よりも質』が問われる社会、経済等の事象です。

QA と言うコトバをお聞きになったことがあると思います。

Question and Answer・・・、ではありません。

Quality Assurance の略、QA です。「質の保証」ですね。

教育に質を向上する取組が始まったというわけです。

GPA で共通の質の向上を求め、オフィスアワーで定期的に学生の相談等によって、そして、その上で、授業アンケートによる授業評価を実施して、より顧客、つまり、学生の求めに応じた質の高い教育を、世界中で求めている姿です。

ここで一つ見落としとしてはいけないことがあります。

例えば「オフィスアワー」。原理、原則から言えば、学生は、この時に、教員に会うことができます。見方を変えれば、この時間以外は、事前にアポイントメントを取る必要がある。教員は、オフィスアワー以外は、学生に会うことなく、自分の教育方法や内容の向上のため深い思考を極めたり、自身の教育や研究を行う、ということです。「質」の向上の一点を見つめて、です。私は、そう、考えています。原則は、オフィスアワー以外に教員の研究室にむやみに行くことなど避けるべきです。教育と研究、そして、特に、教室及び大学運営と社会貢献への力量形成と向上への取組を、決してディスターブしてはいけません。

もう一つ。単位制とは、何でしょう。私の[ホームページ](#)に記してありますが、大学設置基準によれば、2単位の授業とは、その運用は各大学に任されているとはいえ、原則は、1週2時間、一枠、ひとこま、と言ったりしますが、90分の授業で、15週をいいます。高等学校では、50分だったと思います。大学の、このひとこまの授業には、予習と復習に2時間ずつ、つまり、15掛ける2時間で30時間の教室授業に対して、2足す2の4時間掛ける15、つまり、60時間の自学の時間、合計で90時間の勉強の時間があって初めて2単位となる、ということです。

授業評価の背景には、こうした、あなた方が授業外で行う学習時間があって初めて、責任をもった建設的な評価活動に向かうことが、学生に求められている。このことを忘れないで欲しい、と強く指摘しておきます。

どうぞ国を越え、ボーダー、垣根を越えた、広い世界を相手に、見据えて、力強く、はば

たく努力をしてください。
期待しています。

昨日と今日の「履修相談会」。大いに、貴重な時間をさいて、皆様の学習と生活の質を高めるために集まってくれた2年生と3年生に、改めて、深い感謝を申し上げたいと思います。
ありがとう。

最後に、是非、己のブランドを持ってください。一流を求めてください。畏れる心、恥じる心、感謝の心で、相手の目線で、相手のフトコロに飛び込んでください。

時間は容赦なく過ぎて行きます。次はこれ、次はこれ、……。明日は、もう別の……。
で、どこに足場を置くか？

明日は、また別の情報が。今の情報は、過ぎ去ってしまいます。
刹那的にです。

「正しいことは、一に止まること」だと言います。
ぶれずに、原理、原則の一点に止まって、のっとなって、まい進することを期待しております。

健康に留意することはもちろんですが、少しぐらい無理をして体を壊しても、若いときは、治りが早い。少しは健康を害するほどにがむしゃらに、基礎をいっそう培ってください。
今の皆さんは、そんな時期です。

*1) 本稿は、平成21年4月8日と2日の2日間にわたって行われた学校教育選修入学者に対して行われた「履修相談会」での簡単な挨拶をまとめ、再録である。